

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900634		
法人名	株式会社 アイミ		
事業所名	グループホーム ソブエピア (藤の間)		
所在地	愛知県稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成28年1月4日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成28年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>利用者一人ひとりの今の気持ちを第一に考え、業務よりその時々のお気持ちに添ったケアや要望を優先して行なっている。そのため職員間での情報交流や両ユニット間で協力して取り組んでいる。社会との交流が図れるよう、買い物や美術館、喫茶店等へ外出の機会を持つよう心がけている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>職員は転倒リスクやヒヤリハットをきちんと分析し、事故報告を書くことで次なる支援方法を話し合っている。現況をなるべく維持し、1日1日を笑いや楽しみをもって過ごしてもらえるよう利用者一人ひとりの気持ちの理解に努め、対応している。管理者の交代や職員の入れ替わりがあったが、職員はチームワーク良く個別の支援に取り組みながら、体制づくりへの基礎を構築し、少しずつ気持ちの余裕ができてきた。長年の課題であった運営推進会議を年6回開催し、現況の理解と制度改定やマイナンバー制度、確定申告における医療費控除等家族の不安解消への説明や、質疑応答の場が設けられ、市役所との協力体制が確立されている事がうかがえる。次年度に向け、ボランティアや家族との繋がりを拡大し、豊かな自然環境を生かした取り組みにも期待したい。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々のお状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と共に作り上げた利用者の立場に立った理念を毎朝申し送り後、昭和しながら意識の統一をおこなっている。理念が形式的にならないよう常に理念を念頭に置き利用者と接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西の畑を地元の方に貸し出し、耕していただき季節ごとの収穫物を頂き利用者も楽しみが増えた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的に行うことで地域の方々に認知症への理解を深めていただくことができた。そしてお困りのことがあれば気軽に相談、連絡が出来るようお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方々、市の職員の方に参加していただいているが、消防団員の方々の参加が参加されていない状況である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回参加していただいている。事情を抱えた利用者様については、市の担当者、地域包括支援センターと連携をとりながら支援している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない暮らしをしえんできるよう職員が常に目配りし、情報交換を行いながらケアを行っている、カンファレンスや申し送りの中で職員間で話し合い理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する意識は職員に浸透しており、日頃の声掛けや会話の中においても幻想に対して注意を払っている。もし、その場面を見受けた場合、書く職員同士注意しあい、気をつけて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の必要な該当者がいない為、管理者職員全員が理解が薄く、万全の体制とはいえない。『見守り支援』を受けている利用者様がみえるため、理解向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に解りやすく丁寧に説明することに心がけている。今の所トラブルはない。介護保険制度等不安な事や疑問点についても説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会等に意見、要望について問い合わせ気軽に言える雰囲気作りに配慮している。それでもいえない方には、玄関に意見箱を設置し、頂いたご意見については早急に対応するよう心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、要望は丁寧に受け取り、個別懇談を行い意見交換等行っている。そのとき出た意見、要望は、提案など取り入れていけるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者には、勤務日数を増やしたり、希望休をきいたりしている。夜勤職員の人員不足の為、夜勤専属のアルバイトの雇用も行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望に応じて、なるべく研修に参加してもらい、jカンファレンスのときに研修報告をしてもらい、全職員のスキルアップに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、他施設との交流や意見交換を行った。今後も継続して定期的に交流の機会を得られるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人さんと向き合い、不安や思い、願いを受け止め安心感を持っていただけるように努めている。何気ない会話の中から生活状況やその背景を理解するよう心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームで死活を始めるにあたり、ご家族様の方々が何を望んでいるか十分に聴き、施設としてできることを伝えながら意向に沿うよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の事情をもとに早急な対応を見極め可能な限り、対応、方策を検討し柔軟な対応に心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『できることを増やしましょう』という理念の下、宿院がその人に無理のないよう、継続的に行えることを探し、実践していただいている。職員も利用者様から教わることもあるため、共に支えあっている環境づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と離れていても生活の様子が伝わるよう、報告・相談し絆を寛次ながら生活できるよう支援している。毎月郵送している、おたよりで家族との橋渡しになるようお届けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた病院やスーパー、喫茶店などに行き、馴染みの人と交流の場を設けている。知人、友人、親戚の方の訪問も歓迎し、楽しい時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の良し悪しについて職員は把握しており、常に様子を伺いながら孤立しないよう職員が間に入り仲を取り持っている。席や場所等は利用者の性格や相性に配慮し決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の本人の状態によるが、必ず次に繋げることを心がけている。他の施設へ移られても機会があれば面会に行ったりご家族様からお話を伺い、関係の継続をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との会話の中で移行や希望を確認し、職員間で情報交換や話し合いをし、出来る限り実現するようにしている。意思疎通の困難な方でも表現やしぐさからくみ取り、また家族様からの情報収集に努め、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様や家族様からの情報で生活歴・習慣・嗜好等聞き取り、職員間で情報の共有を行い、入居後も引き続き情報の収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムに出来るだけ合わせられるよう配慮し、その日の体調に応じ臨機応変に対処している。朝の申し送り時に一人ひとりの体調について報告し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて居室担当者を中心に職員間で意見交換を行い、介護計画に反映している。3ヶ月という期間にとらわれず、心身の変化や本人の希望・要望に沿って見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録で情報の旧友を行い、日々の食事・水分量・排泄等のチェックや観察、感じたことを細かく記入している。各フロアには詳細について申し送り専用の伝言ノートを作り活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様だけでなく、家族様を含めた支援をと考えている。個々の様々なケースに合わせ柔軟な対応を心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションにおいてボランティアの活用を積極的に行っている。警察や消防との連携を心がけているが、地域資源の活用が上手く生かしていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の希望があったり、要望があれば対応している。ご家族様と協力し受診対応を行い、必要に応じて同行し情報をお伝えする。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員が在籍していない為、協同することができない状況である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、情報交換に努めている。主治医との関係づくりも積極的に行い、早期退院に向け連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る限り支援や方針については理解していただいている。心身の状態変化に応じて随時意思を確認しながら取り組んでいる。看取りについては体制が整っていない為、行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルが目につくところに掲示してある。救急救命法の講習会等行っているが、職員の中には不安に思っている人がいる状況ではある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	凶暴所の協力を得て避難訓練・消防訓練を定期的に行っている。昼間・夜間の両方を想定して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛け・排泄・入浴時のプライバシーの配慮、入室時の挨拶など心がけ尊厳を損なわない支援に取り組んでいる。馴れ合いにならないように、また、個人情報に対する意識等も含め職員間で確認しながら改善を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも言いやすい雰囲気作りに心がけている。意思表示が困難な方、判断が難しい方でも気持ちをくみ取る努力をし、満足感を持っていただくことができる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において、一人ひとりのその日の体調に合わせて、その日の一日の過ごし方・支援の仕方を組み立てて対応している。業務主体のケアは行わないよう職員も理解している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分により、洋服を選ばれる方には希望に添えるよう支援している。男性の方は毎朝身だしなみとして髭剃りを行っている。出張理美容や馴染みの美容室へお連れして対応もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニュー下記や後片付け、調理の補助は利湯者の大切な役割となっている。利用者の方が主体となって行える支援として、お好み焼きやホットケーキ、おはぎ作りやお抹茶をたてていただくなど充実感、達成感につなげている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や体調を考慮して柔軟に対応している。水分接種量や栄養面でも旬の野菜を多く取り入れ、体重管理をしながら楽しく食事を提供できるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて行っていただいている。また、義歯については毎日、洗浄剤にて清潔を維持している。状況によっては、鹿の往診・受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、チェック表を確認しながらトイレ誘導やオムツ交換を行っている。リハパンから布パンツへ変更やパットの種類も常に検討し、変更をしている。オムツ類は自己負担の為無駄にならないようご家族様への負担も考慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、毎日の牛乳やヨーグルト・投入の提供により水分量への配慮を行っている。散歩や体操等体を動かすことに心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ヒニキ風呂で一日おき(週3回)に入浴をいただいている。希望があれば毎日の入浴対応もしている。ゆったり入浴できるよう配慮し、利用者の状態によっては、2人介助にて安全に行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調やその日の出来事により、個別に対応し、自然なリズムができるようにしている。特に就寝前には、良眠できるよう室温や明るさなどに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に処方箋のコピーをカルテにファイルし、常時確認できるようにしている。誤薬・飲み忘れがない様、毎食時確認をするよう職員へ中期喚起を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみのある生活が送れるよう趣味や好みを把握しお手伝いや草花の世話などをおこなっていただいている。外食や買い物等に職員と一緒に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望を優先し、日用品の買い物や外食、公共施設への見学など外出の支援に努めている。車椅子の方でも出かけられるよう、バリアフリーになっている喫茶店や施設への外出も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば自己管理にて保管していただくことも支援している。それにより人に安心感を持っていただけることに繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時いつでも電話できるようないはりよしている。出来ない方については、母の日のプレゼント等お礼状を絵手紙で作成した葉書で代筆しお伝えしている。自宅が気になる方には、来るまで同行することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールには季節ごとに職員と利用者が協同作成した作品を飾っている。職員がバタバタと忙しく動き利用者の方々が落ち着かないような状況を作らないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル席だけでなくテレビを見ながらソファでくつろいだり、玄関先の縁台で日向ぼっこや会話を楽しんだり、気の合う方とお話できるよう常時、工夫を重ねている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には造りつけの家具とベッドがある。しかし使い慣れた家具、テーブル、椅子など持込制限は行っていない。コルクボードも設置し、作品や写真、カレンダー等掲示し本人や家族に見ていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレにわかりやすく目印をつけて、迷わないよう環境整備には常に配慮している。		